



子供の行動への対応について学びました！

～ スタディ・メイト養成講座（第1回）より ～



今年度も、スタディ・メイトの養成講座がスタートしました。年間7回の予定で、全体研修会（講話、グループワーク）、特別支援学校での実地研修を行います。

5月16日、富山県総合教育センターで行われた第1回の養成講座には、聴講者を含め約80名が集まり、臨床心理士の深澤大地氏（富山県こどもこころの相談室 カウンセリングオフィスこころのおと 代表）の講話を聞きました。

深澤氏は、『発達障害の理解と支援』と題した講話の中で、ティーチャーズ・トレーニング（Tトレ）について、事例やワークを交えて詳しく紹介されました。



Tトレは、ペアレント・トレーニングを基にした教育・保育現場の先生のためのプログラムです。養成講座の受講者の中には、すでに小中学校に勤務している方もおられます。深澤氏の講話を聞いた者全員が、子供たちとの信頼関係を築いていきたいという意欲や願いを新たにすることができたようです。以下に、受講者の感想をいくつか紹介します。

- ・子供の行動を見ることの大切さを知り、子供をほめるポイントが明確になったと感じた。
- ・授業中にほめてもよいのか（授業の邪魔にならないか）と迷うことがあるが、タイミングや視線等の重要なポイントを意識してすぐにほめたいと思った。
- ・子供のよいところを見つけ、ほめ言葉のレパトリーを増やして、よい関係性を築けるようになりたい。
- ・困った行動は大人から見て困った行動で、子供は適切な行動が分からず困っているのだと思った。
- ・今までは、「してほしくない行動」ばかりに注目していた。今後、「好ましい行動」に注目し、最後に必ずほめることをしていこうと思う。
- ・「計画的無視」ということを初めて知った。子供の存在ではなく、子供を意識しながら行動を無視するというのを聞き、関わり場面でうまく取り入れていきたい。
- ・思春期の子供への対応の工夫がとても参考になった。Tトレについてもっと勉強したい。
- ・担任の先生と連携して、子供に同じ対応をしていきたい。
- ・ほめるポイントを念頭に置き、どんなほめ方や関わり方が効果的であったかを担任の先生や管理職に伝えていくよう努めたい。